

橘高等学校定時制 令和5年度 教科 国語 科目 言語文化 年間授業計画

教科 : 国語 科目 : 言語文化 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 1組

教科担当者名 : (1組 : 並木信人)

使用教科書 : (新編言語文化 大修館書店)

使用教材 : (自作ワークシート)

科目 現代の国語 の目標 :

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を伸長する。		論理的に考える力、他者に共感する力、想像する力を伸ばし、言葉で伝えあう力を伸ばす。		現代社会における多様な話題・題材に対して興味を持ち、言語活動を通して、主体的に学習する態度を伸長する。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	○現代小説に親しみ、小説を読む楽しさを味わう。 ○筆者の主張をとらえ、言葉が果たしている役割や日本語の特色について理解する。	ことばと出会う、表現を味わう。 ○鏡 ○季節の言葉と出会う	【知】言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化について理解を深める。 【思】文章の叙述にもとづいて、要旨や要点を把握している。 【態】自主的に文章の読解に前向きに取り組もうとしている。	○	○	○	24
2 学期	○内容・構成・展開などを叙述に即して的確にとらえる。 ○言語文化に関わり深い題材を決め、表現を工夫して書く。	古文に親しむ、随筆を楽しむ。 ○児のそら寝 ○春はあけぼの	【知】言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化について理解を深める。 【思】作品の背景や、他作品との関係をふまえ、理解を深める。 【態】表現を正しく理解し、意欲的に学習に取り組む。	○	○	○	28
3 学期	○漢文訓読の方法を理解し、漢文に親しむ。 ○故事成語について知り、その背景となるエピソードに触れる。	漢文に親しむ。 ○訓読のきまり。 ○格言。 ○故事成語。	【知】漢文の訓読法に注意して漢文を読み、書き下し文を作成する。 【思】書き下し文をもとにして、内容を理解し、我が国の言語文化への理解を深める。 【態】意欲的に学習に取り組む。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和5年度 教科 数学 科目 数学I 年間授業計画

教科 : 数学 科目 : 数学I 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年

科担当者名 : (1組 : 竹内) (2組 : 久津見)

使用教科書 : (東京書籍 新数学)

使用教材 : ()

科目 数学I の目標 :

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
数の計算、数と式、二次関数、三角関数等、基本的な概念や、原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身に付けるようにする。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多方面に見たり、目的に応じ適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその事象を、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力等を養う。		数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間
1 学期	・ 1 学年の復習 2 字関数	・ 1 年時に学習した単元の確認 ・ 2 次関数を変形し、2 次関数のグラフが描ける。	【知】 中学校までに学習する整数の四則演算ができる。 【知】 2 次の乗法公式や、因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 【思】 問題を解決する際に、すでに学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりすることができる。	○			8
	2 章 2 次関数 2 節 2 次関数の値の変化	・ 2 次関数のグラフが描け、最大値・最小値が求められる。 ・ 2 次関数のグラフと x 軸との共有点を 2 次方程式を解くことによって求められる。		○	○		16
2 学期	3 章 三角比 1 節 鋭角の三角比 定義 相互関係 第 2 節 三角比の応用 三角形の面積公式、正弦定理、余弦定理、	・ 三角比の表の利用の仕方を学習し、三角比の表を活用して三角比の値を求めることができる。 ・ 三角比の定義が理解できる ・ 三角比の相互関係について理解し、1 つの三角比の値から他の 2 つの三角比の値を求めることができる。 ・ 与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる	【知】 三角比の意味や性質について理解するとともに、三角比の値を求めることができる。 【思】 1 つの三角比の値から他の 2 つの三角比の値を求める方法を考察することができる。 【態】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	12
				○	○		18
3 学期	4 章 集合と論証 1 節 集合と論証 2 命題と集合 3 命題と証明	・ 命題の真偽と反例を考察することができる。また、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連づけて理解する。 ・ 命題の逆、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。	【知】 必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連づけて理解する。 【思】 命題の逆、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。 【態】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	6
							5
							5
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和5年度 教科 保健体育 科目 体育 年間授業計画

教科 : 保健体育 科目 : 体育 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 1組

教科担当者名 : (1組 : 馬場 正彦 佐藤 佑哉)

使用教科書 : (現代高等保健体育 大修館書店)

使用教材 : ()

科目 体育 の目標 : 生涯にわたって心身の健康の保持増進を目指し、豊かなスポーツライフを送れる資質と能力を養う。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。		・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		・生涯にわたって継続して運動に親しむため、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするとともに、健康・安全を確保している。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	・柔軟運動、体幹トレーニングを行い、柔軟性向上・体幹を強化する(体づくり運動)。 ・自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦をたて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク、サーブなどの安定したボールの操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(卓球)。	・体づくり運動 ・卓球 ・体力テスト測定	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	1 19 6
2 学期	・卓球は上記と同様。 ・自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立て、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやトス、アタックなどのボール操作と攻守などのチームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする(バレーボール)。	・卓球 シングルス及びダブルス ・バレーボール	【知】自己の狙いに応じ効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書いたりしている。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見つけている。 【態】危険の予測をしながら、回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。	○	○	○	6 24
3 学期	・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解することができるようにする(体育理論)。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図る(体づくり運動)。	・体育理論 ・体づくり運動	【知】体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書きだしたりしている。 【思】体力の程度や性別等の違いを超えて、仲間とともに体づくり運動を楽しむための調整の仕方を身につけている。 【態】体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	7 7
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和5年度 教科：保健体育 科目：保健 年間授業計画

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1単位

対象学年組：第2学年 1組

教科担当者名：(1組：馬場 正彦)

使用教科書：(現代高等保健体育 大修館書店)

使用教材：(パワーポイント プリント)

科目 保健 の目標：現代の健康問題や、新しい時代の健康の考え方について理解する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じ他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進や、それを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・安全のために必要な個人の行動について例をあげるられる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 ・応急手当の意義について説明できる。 ・実際に日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 ・実際に心肺蘇生を行うことができる。 ・1学期の授業内容を6割程度理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 ・期末考査 	<p>【知】各項目の内容に関して理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思】各項目について自他や社会の課題を発見したり、プリントに考えをまとめている。</p> <p>【態】各項目において、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
							2
							2
							2
							2
							1
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できる。 ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身におよぼす影響について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方をあげることができる ・加齢に伴う心身の変化について例をあげて説明できる。 ・2学期の授業内容を6割程度理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ・期末考査 	<p>【知】各項目の内容に関して理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思】各項目について自他や社会の課題を発見したり、プリントに考えをまとめている。</p> <p>【態】各項目において、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
							2
							2
							3
							3
							2
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義と健康とのかわりについて説明できる。 ・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・職場が行う健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・3学期の授業内容を6割程度理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・期末考査 	<p>【知】各項目の内容に関して理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思】各項目について自他や社会の課題を発見したり、プリントに考えをまとめている。</p> <p>【態】各項目において、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
							2
							2
							1
配 当 合 計 時 間							35

橘高等学校定時制 令和5年度 教科英語科目英語コミュニケーションⅠ 年間授業計画

教科 : 英語 科目 : 英語コミュニケーションⅠ 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 1組

教科担当者名 : (1組 : 仲瀬・スミス)

使用教科書 : (Amity English Communication 1)

使用教材 : ()

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標 : 英語の基礎知識を復習し、中学英語の定着と高校英語への発展を目指す

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
英語の基礎知識を身に着ける。 英語の検定にチャレンジする		知識を活用しながら自分を表現する力を身に着けている。		主体的に学習に取り組もうとしている。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	比較	好きな教科や描かれたイラストについてやり取りしたり、学科やクラブについてまとめて発表したりする。	【知】比較表現・現在完了を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【態】比較表現・現在完了を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○		○	4 1 2 1 1
	現在完了						
2 学期	現在完了	相手の生活面や経験などについてやり取りしたり、セレンディピティについてまとめて発表したりする。	【知】現在完了や受動態を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】現在完了や受動態を用いて、セレンディピティについて、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】現在完了や受動態を用いて、セレンディピティについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	1 2 1 2
	受動態 分詞の形容詞的用法	服装や平和のシンボルについてやり取りしたり、大切なものについてまとめて発表したりする。					
3 学期	関係代名詞	好きな飲み物や平和に寄与した有名人、将来の夢などについてやり取りしたり、水分の摂り方についてまとめて発表したりする。	【知】関係代名詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】関係代名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】関係代名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	9 1 0
配 当 合 計 時 間							7 0

橘高等学校定時制 令和5年度 教科 家庭 科目 家庭基礎 年間授業計画

教科 : 家庭 科目 : 家庭基礎 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 1組

教科担当者名 : (1組 : 村山)

使用教科書 : (図説家庭基礎 (実教出版))

使用教材 : ()

科目 家庭基礎 の目標 :

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	健康や安全面から住居管理の大切さを考え理解する 簡単な住居の設計から快適な住居を考え理解する 家族の関係性や多様性、法律を理解する こどもの成長と親の役割、社会との関係を考え理解する	住生活をつくる 健康で安全な住生活 住空間の成り立ちと平面計画 家族、子ども 家族をとりまくことがら、法律 こどもの心身の発達 こどもがすこやかに育つ環境	【知】 基礎的な知識が身に付き理解が深まっているか (考査、製作物) 【思】 自分の考えをまとめ表現できるか (リポートの提出、平常授業での発言) 【学】 興味を持ち意欲的に学習に取り組んでいるか (出席状況、授業態度、発言)	○	○	○	24
2 学期	栄養に関する基礎知識を習得し自分の健康に結びつける 世界的な食料の現状を理解し持続可能な食生活を考える 簡単な食事づくりを学ぶ 成年になることの意味を理解し必要な知識を得る 成年になること責任を自覚する 家計から社会の一員になることを考える	食生活をつくる 食生活と健康 食品の選択と表示 食を取り巻く問題 調理実習 消費者を考える 18才成年と消費行動 家計の管理 循環型社会の構築	【知】 基礎的な知識が身に付き理解が深まっているか (考査、製作物) 【思】 自分の考えをまとめ表現できるか (リポートの提出、平常授業での発言) 【学】 興味を持ち意欲的に学習に取り組んでいるか (出席状況、授業態度、発言)	○	○	○	28
3 学期	衣服を大切に扱うための知識を得て実践できる 基礎縫い技術を使った作品をつくり技能の向上をめざす	衣生活を作る 衣服の機能と衣服の手入れ 被服製作実習	【知】 基礎的な知識が身に付き理解が深まっているか (考査、製作物) 【思】 自分の考えをまとめ表現できるか (リポートの提出、平常授業での発言) 【学】 興味を持ち意欲的に学習に取り組んでいるか (出席状況、授業態度、発言)	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和05年度 2年産業実習 年間授業計画

教 科 : 産業 科目:産業実習 単位数: 3単位

対象学年組 : 第2学年1組

教科担当者名: 五十嵐裕明、井上 仁

使用教科書 : (補助プリント)

使用教材 : (溶接機器、製図機、CAD、電気工事用機器、など)

目 標 : 作業について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力、人間性等】
各作業の準備、片付けや基本的な知識・技術の習得をするとともに、各種操作方法等の理解を深め、最後まで諦めずに作品を製作できる力を身に付ける。	各作業の作品製作にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、産業技術基礎に関する知識と技術を活用しながら表現する力を身に付けている。	各作業で作品製作に興味・関心を持ち、産業技術基礎の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して主体的に学習に取り組もうとしている。

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目 内 容	評価の規準	評価の観点			予定時数
				知	思	学	
1 学期	・アーク溶接 機器の準備、片付 基本操作 アーク発生法	(溶接) ・基礎、実技、 法令、災害防止 等の習得 (電気) 製図、 CAD、電気工 事作業の習得	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	35
2 学期	・電気工事 道具の準備、片付 はんだ 基盤加工 回路	(溶接) ・基礎、実技、 法令、災害防止 等の習得 (電気) 製図、CAD、 電気工事作業の 習得	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	35
3 学期	・電気工事 道具の準備、片付 はんだ 基盤加工 回路	(溶接) ・基礎、実技、 法令、災害防止 等の習得 (電気) 製図、CAD、 電気工事作業の 習得	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	35
							合計 105

・2班によるローテーションで実施

橘高等学校定時制 令和5年度 ビジネス会計 年間授業計画

教 科： 産業 科目：ビジネス会計 単位数：3単位

対象学年組： 第2学年 1組

教科担当者名： 1組：近藤・上野

使用教科書： 簿記 東京法令出版

使用教材： 自己作成プリント

目 標：商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をおこなうことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
・経済活動と取引、簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身につけている。		・適確に判断し諸帳簿に記帳することができる。 ・簿記の目的である財政状態と経営成績を明らかにすることなどについて、知識を活用しながら理解する力を身につけている。		・主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学 期	簿記の意味や目的を理解し、要点をとらえる技能を身につけさせる。	簿記の必要性について理解させる。	【知】基礎的な知識を身に付け、簿記を学ぶことの必要性や重要性について理解している。 【思】取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続の基本的な流れについて理解し記帳している。 【態】簿記の必要性や重要性を理解したうえで、簿記の学習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	取引を適切に記帳できる力を身につけさせる。	基本的な取引の仕訳ができるようにする。					18
	決算に関する基礎的な知識や、一連の決算の流れについて理解させる。	総勘定元帳・補助簿への転記、記入をできるようにする。 決算の仕組みを理解させ精算表まで記帳できるようにする。					16
2 学 期	以下の取引の種類とそのしくみを理解し、適切に記帳できる力を身に付けさせる。 手形、その他の債権・債務、有価証券、固定資産 他	生徒各自に模擬手形、小切手の記入と発行を体験させることにより、学習を深めさせる。	【知】各取引の意味とその種類について理解している。 【思】各取引から思考し適切に判断した記帳方法を用いることができる。また、各種帳簿を用いて、基本的な企業の財政状態及び経営成績を把握できている。 【態】練習問題に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	18
	8桁精算表について理解し記帳できる力を身につけさせる。	決算整理事項を理解し、繰り返し学習により仕訳が適切に出来るようにする。 上記をもとに、8桁精算表に記帳し完成させることができるようにする。					24
3 学 期	全国経理学校協会簿記実務検定3級レベルの問題を解き、実践的な簿記の力を身につけさせる。	演習問題を解き、振り返りにより苦手を克服する力を身につけさせる。	【知】演習問題を理解し、意味や要点を捉える技能を身につけている。 【思】演習問題を正確に解き、さらに諸帳簿の作成を体系的に思考することができる。 【態】各種帳簿や資料を用いて、企業の財政状態及び経営成績を把握しようとしている。	○	○	○	11
		これまでの学習を総合的に理解させ、達成体験も得られるようにする。					12
配 当 合 計 時 間							105

2 年年三修制

橘高等学校定時制 令和5年度 教科公民科目政治経済 年間授業計画

教科 : 公民 科目 : 政治経済 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 (三修制)

教科担当者名 : (幸田 まゆ)

使用教科書 : (最新政治・経済 実教出版)

使用教材 : (自作プリント)

科目 政治経済 の目標 : 日本の政治制度や市場経済の機能について学び、よりよい社会の実現に向けて主体的に解決する力を身につける。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
現代社会の基本原則を理解し、資料等から諸課題についてとらえる。		現代社会の諸課題について自分の意見を持ち、課題解決に向けて考える。		現代社会で起こっている事象に関心を持ち、よりよい社会の実現を目指す態度を養う。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	○民主政治の基本原則を学び、国民の政治参加について理解する。 ○国会、内閣、裁判所と三権分立について概略をとらえる。 ○日本の選挙制度について学び、現在の選挙における課題を資料から読み取る。	現代国家と民主政治 ○民主政治の基本原則 日本の政治制度と政治参加 ○日本の政治機構 ○政党政治と選挙制度	【知】民主政治の基本原則を学び、国民の政治参加の方法を理解している。 【思】日本の選挙制度と選挙における課題について自分の考えをまとめている。 【態】よりよい社会の実現に向けて、政治を通して主体的に行動することや解決の方法を考えようとしている。	○	○	○	10 14
2 学期	○市場経済における価格の変化を市場の原理から理解する。 ○株式会社のしくみと企業の社会的責任について理解し、企業の活動が社会問題の解決につながることをとらえる。 ○市場経済で貨幣が担う役割としくみを理解する。 ○政府の経済活動の機能をとらえ、その課題について考える。	現代の経済社会 ○価格と市場の役割 ○株式会社のしくみ ○貨幣の役割と金融 ○財政の役割と課題	【知】市場経済における価格の変化を市場の原理から理解している。市場経済で貨幣が担う役割と金融のしくみを理解している。 【思】政府が行う経済活動の機能についてとらえ、歳入と歳出のバランスから持続可能な財政の在り方について自分の考えをまとめている。 【態】身近な株式会社の具体例から、投資によって企業を通して社会的課題を解決に導く方法を意欲的に追及している。	○	○	○	28
3 学期	○消費者の権利、労働者の権利、社会保障制度の概要を理解する。 ○消費者問題の具体例から、自分が消費者問題にあった場合、どのように解決することができるか考える。 ○日本の社会保障と財政の関係を資料から読み取りその課題についてとらえる。	現代の日本経済と福祉の向上 ○消費者問題 ○労働問題と労働者の権利 ○社会保障の役割と課題	【知】消費者の権利、労働者の権利、社会保障制度の概要を理解している。 【思】消費者問題の具体例から、自分事としてとらえ、消費者問題にあった場合の解決方法について、自分の考えをまとめようとしている。 【態】日本の社会保障制度の内容、社会保障と財政の関係を資料から読み取り、今後の社会保障の在り方について課題解決の方法を考えようとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70

橘高等学校定時制 令和5年度 教科 数学 科目 理数探求 年間授業計画

教科 : 数学 科目 : 理数探求 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 (三修制)

科担当者名 : (1組 : 竹内)

使用教科書 : (啓林館 理数探究基礎)

使用教材 : (プリント)

科目 数学 I の目標 :

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
探求の過程で必要となる、数学的な見方や考え方を統計学的見地からみにつけられるようにする。また、先人の研究方法を学び、論理的で説得力のある発表ができるよう助言し、研究倫理や正しい実験観察方法を理解させる。		探求のテーマを設定し、研究を進め発表するために必要なデータ、収集方法、論理的な正当性を与える統計的手法に必要な事柄や発表方法などを考えさせる。		グループワークを通して他者の考え方や先人の研究方法への理解を深めるとともに、研究倫理も学習させる。自然現象に関心を持ち、疑問に対して粘り強く考え、積極的に質問を投げかけられる人物を育成する。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 探求の意義や流れを理解する。 実際の探求の進め方を概観し、探求により得た成果を報告書にまとめる方法を理解する。 仮説の立証のための数学的な考え方やデータの処理方法を学習させる。 具体的で研究可能な課題を設定させる。 	第1章 探求の進め方 第1節 探求へのいざない 第1項 探求とは 第2項 探求の流れ 第2節 課題の設定 第1項 探求の準備 第2項 課題の設定	【知】探求の意義や探求に必要な資質や能力について理解している。 【知】結果をグラフにまとめることができる。 【思】平均・偏差など基礎的な統計的な量を用いて考えることができる。 【思】多角的・複合的な視点から課題を考える方法を身に付けている。 【態】探求の流れと段階ごとの注意点を理解しようとしている。	○		○	2 2 16 4
		第3節 課題の探求 第1項 仮説の設定 第2項 文献を調べる 第3項 探求の計画 第4項 探求を記録する 第5項 結果の処理	【知】データの種類と扱い方に対して理解している。 【思】表やグラフの種類ごとの特徴について理解している。 【態】先人の研究を例に仮説を設定する意義について考えようとする。 【態】得られた結果を統計的手法を用いて処理しようとしている。	○	○	○	10 6 4 6 4
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> レポートの結果をお互いに添削し表現などについて確認する。 発表の際の質疑応答について準備する。 探求で取り組んだ内容をポスターやスライドにまとめ発表する。 研究者に求められる倫理観について意見交換する。 	第4節 発表と報告書の作成 第1項 発表することの意義と方法 第2項 研究発表 第3項 報告書の作成 第5節 探求に取り組む姿勢 第1項 私たちの共有財産としての研究成果 第2項 探求を意義あるものとするために 第3項 守るべき研究倫理	【知】正しく伝わる文章を書くことができる。 【知】引用の仕方を理解している。 【思】よい発表を行うために配慮すべき内容や注意点、改善点について考えている。 【態】研究倫理に基づいて探究活動を行おうとする。 【態】知的財産や先行研究を尊重しようとする。	○	○	○	2 4 4 2 2 2
		配 当 合 計 時 間					

橘高等学校定時制 令和5年度 教科英語科目 論理・表現Ⅰ 年間授業計画

教科 : 英語 科目 : 論理・表現Ⅰ 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第2学年 三修制

教科担当者名 : (仲瀬)

使用教科書 : (VISTA Logic and Expression I)

使用教材 : ()

科目 論理・表現Ⅰ の目標 : 英語の基礎知識を復習し、中学英語の定着と高校英語への発展を目指す

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
英語の基礎知識を身に着ける。 英語の検定にチャレンジする		知識を活用しながら自分を表現する力を身に着けている。		主体的に学習に取り組もうとしている。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時間
1 学 期	アルファベット／語／文構造／接続詞／前置詞 現在形 (be 動詞／一般動詞) 過去形 (be 動詞／一般動詞) 現在進行形／過去進行形	学校生活／対話・インタビューの場面で、共感を示す表現を学ぶ。 学校生活／スピーチの場面で、発表の始めと終わりを身に付ける。 日常生活／LINEの場面で、許可を求める表現を学ぶ。	【知】 be 動詞・一般動詞の現在形・過去形を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【態】 be 動詞・一般動詞の現在形・過去形を用いて、お気に入りの場所について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○		○	4 1 2 1 1
	未来表現 (will/be going to) 現在完了形① (経験／継続) 現在完了形② (完了／現在完了進行形) 比較 (比較級／最上級/as...as ~) 助動詞① (can/may) 助動詞② (must/have to/should)	日常生活／対話・インタビューの場面で、誘う・提案する表現を学ぶ。 日常生活／スピーチの場面で、聴衆を引き付ける表現を学ぶ。 学校生活／電子メール等の場面で、挨拶の表現を学ぶ。 日常生活／対話での驚く表現を学ぶ。 日常生活／スピーチの場面で、理由を述べる表現を学ぶ。 地域での活動／ホームページで、事実を伝える表現を学ぶ。	【知】 進行形や助動詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】 進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】 進行形や助動詞を用いて、提示された写真について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	1 3 1 3
3 学 期	受動態 不定詞① (名詞的用法)／動名詞 不定詞② (副詞的用法／形容詞的用法) 分詞 (現在分詞／過去分詞) 関係代名詞 仮定法 (If ~/I wish ~)	日常生活／対話の場面で、同意する表現・図表の説明を学ぶ。 学校生活／スピーチの場面で、順序を述べる表現を学ぶ。 社会生活／ホームページ/プレゼンテーションの場面で、出典・引用を示す表現や例示の仕方を学ぶ。 本・新聞・雑誌／意見・感想文の場面で、意見を述べる表現を学ぶ。	【知】 不定詞・動名詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】 不定詞・動名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えている。 【態】 不定詞・動名詞を用いて、好きな動物について、健康に関することや空いた時間について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	9 8
	配 当 合 計 時 間						

橘高等学校定時制 令和05年度 2年三修制ものづくり理論 年間授業計画

教科 科 : 産業 科目 : 産業技術基礎 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第1学年1組

教科担当者名 : 大澤 正則、伊藤 博

使用教科書 : (補助プリント)

使用教材 : (ICT機器、各工業製品・部品、工具類)

目 標 : 作業について興味・関心を持ち、発言や手順を考え、他者と協働して取り組めること。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力、人間性等】
工業で使用される材料について基本的な知識を習得するとともに、製造方法等の理解を深める。最後まで諦めずに理解する聞く力を身に付ける。	各製品・部品の働き・製造にともなう説明を的確に把握し、考察を深めるとともに、ものづくりに関する知識と製造技術を活用しながら説明する力を身に付けている。	各製品・部品の製造過程に興味・関心を持ち、ものづくりの基本を理解し、より良いものづくりを目指して主体的に学習に取り組もうとしている。

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目 内 容	評価の規準	評価の観点			予定時数
				知	思	学	
1 学期	・工業材料の基礎知識 【知】金属の基本的知識を身に付ける。 【思】成分による性質の変化を理解する。 【学】理解を深める。	・鉄の製造 製造方法の歴史 合金の性質 熱処理 各製造方法	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】基本的性質をしようとしている。また、より良い製造方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	24
2 学期	・陶芸：大澤 【知】陶芸の基本的知識を習得する。 【思】土練の技術を身に付ける。 【学】ろくろ操作に慣れ、器を製作する。	(陶芸) ・道具の準備、片付け ・器の製作 ・土練 ・ろくろの操作 ・釉薬のかけ方	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	28
3 学期	・ガラス工芸：伊藤 【知】ガラスの基本知識を習得する。 【思】安全な基礎作業を習得する。 【学】丁寧な作業で作品を製作し、準備・片付けなどを協力して行う。	(ガラス工芸) ・道具の準備、片付け ・安全基本作業 ・器具の取り扱い ・作品の保温	【知】作業に対して発言やノートを取り、理解を深めようとしている。 【思】手順通りに製作しようとしている。またはより良い方法を考察しようとしている。 【学】興味・関心を持ち、他者を理解し、協働して取り組もうとしている。	○	○	○	18
							合計70

橘高等学校定時制 令和5年度 教科産業 ビジネス演習 年間授業計画

教 科： 産業 科目：ビジネス演習 単位数：2単位

対象学年組： 第2学年 三修制（1組）

教科担当者名： 1組：上野 笑子

使用教科書： 商品開発と流通 東京法令出版

使用教材： 自己作成プリント、株式学習ゲームガイドブック（日本証券業協会） など

学習の到達目標：商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付けるようにする。資金調達の手段である株式に関する基本的な知識を理解する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
商品開発の考案や流通の基礎知識を身につける。 株式に関する基礎知識を理解する。		知識を活用しながら理解する力を身につけている。		商品開発と流通、および株式学習ゲームに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	商品や商品開発の考え方、有形財だけでなくサービスや権利なども含めて流通において商品として取引されていることを理解させる。 資金調達的手段である株式について基礎知識を理解させる。	商品や商品開発の仕組みについて基礎的な仕組みを指導する。 商品開発について重要性を理解できる。 株式市場の仕組みについてその概要を理解させる。	【知】商品や商品開発、株式について概要や要点を捉える技能を身に付けている。 【態】商品や商品開発、株式について正しく理解しようとしている。	○		○	8 16
2 学期	商品開発の意味や目的を理解し、要点を理解させる。 商品開発の種類について理解し要点を捉えさせる。	商品開発の必要性について理解させる。 商品開発の手順に従って開発を進めるリニア型開発、開発過程で商品価値の再発見が行われるノンリニア型開発の過程について扱う。	【知】商品開発の意味を理解し、概要や要点を捉えることができている。 【思】商品開発の種類分けを正確に行い、そこから体系的に思考することができる。 【態】商品開発について正しく理解しようとしている。	○	○	○	12 16
3 学期	商品開発に必要な意思決定や分析手法について理解させる。 SWOT分析、PPM分析等	商品のライフサイクルや競争上の位置付けを明確にして商品開発の方針を決定すること及び商品のカテゴリと標的市場などを整理して開発する商品テーマを決定することについて扱う。	【知】各種手法の意味や要点を捉える技能を身に付けている。 【思】各種手法を用いて、経営分析、商品の開発方針や意志の決定を行うため、思考することができる。 【態】各種手法を用いて、自ら経営分析、商品の開発方針や意志の決定を行おうとしている。	○	○	○	18
配 当 合 計 時 間							70